《読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》

読書活動への扉を開く！

桑村小学校　令和５年１月10日　文責　渡邊

令和５年がスタートしました
『読書活動への扉を開く』を今年もよろしくお願いします！

令和５年という新しい年を迎えました。今年も学校と家庭とが連携し、読書活動を推進していきたいと思います。どうかよろしくお願いします。

さて、今年初めて紹介する著書は、工藤勇一氏と苫野一徳氏共著の『子どもたちに民主主義を教えよう　対立から合意を導く力を育む』（あさま社　2022年10月）です。

この著書には、出版社から次のようなメッセージが記述されていたので、その一部を紹介します。

【桑村小から望む富士】

みらいへ届く本

人はなぜ本を読むか
わたしたちは、その理由を、
本を通して自分と出合っていくためだ、と考えます。
本を読み終えて、目を上げた瞬間
世界がそれまでと違って見えたことはないでしょぅか。
まとっていた「常識」や「正解」
「他人のモノサシ」を脱ぎ捨て
次の瞬間、あたらしい自分になっていく
未知の世界に出合い
わからなきゃ消化のできない感情を抱える
変化の種は個人の中に眠っていて
芽を出すのを待っています
本を触媒として、芽吹き　伸び　つみかさなって
よりよいみらいはつくられていきます
だから、わたしたち「つくりて」にできることは
ゆっくり　じっくりてまひまかけて本をつくること。
次の世代、そのまた次の世代へ
想像力を総動員して、届けること。
100年後、どこかの誰かが受け取った
ひとつの言葉から
世界が動いていくことを信じる。（後略）

さて、創り手の思いをわたしたち読み手はどのように受け止めるでしょうか。読書はわたしたちの生活を豊かにしてくれるツールの一つです。そこには素敵な言葉がたくさんつまっています。その言葉一つ一つをどう受け止め、いかに感じるかは個人によって違います。読書においても五感をいっぱい働かせ、自分なりに想像力を働かせ図書と向き合うことが必要だと思います。子供たちには、たくさんの図書と接して欲しいと願います。

さて、著書の内容について紹介します。まず始めに序章で次のような問いが記されていました。

> 学校は何のために存在するのでしょぅか。
> そして、学校は何を学ぶべき場所なのでしょうか。

この問いに対し、次のように答えています。

> 学校とは子どもたちが「社会の中でよりよく生きていけるようにする」ためにある。だからこそ、子どもたちに「自ら考え、自ら判断し、自ら決定し、自ら行動する資質」すなわち「自律」する力を身につけさせていく必要がある、と。(P3)

また、工藤氏は次のようにも述べています。

> 民主主義がゴールとするのは、いまの言葉で言えば誰一人置き去りにしない、持続可能な社会の実現です。自律した人たちが積極的に社会に参画し、対話を通して平和や公平性を実現していく社会です。そうした社会を確実に実現するための、唯一と言っても過言ではない場が、「学校」なのだと、私は考えています。(P11)

「自律」という言葉がキーワードとなっています。そして、その「自律」を育む具体的な言葉掛けが紹介されています。

> ３つの問いかけ(『最新の脳研究でわかった！自律する子の育て方』(SB図書)をもとに作成
> 第１の言葉かけ「どうしたの？」(なにか困ったことはあるの？)
> ＝子どもの置かれている状態を言語化してもらう。メタ認知に必要な内面に意識を向ける訓練になる。頭ごなしに叱らないことがポイント。
> 第２の言葉かけ「どうしたいの？」(これからどうしようと考えているの？)
> ＝意志を確認する。置かれた状態を解決するための方法を頭の中で考えるきっかけづくりになる。
> 第３の言葉かけ「何か手伝えることはある？」(私(大人)に何か支援できることはある？)
> ＝問題解決の手助け。どんな支援を受けるのか、手助けを受けないのかを判断するのは子ども自身。大人がサポートの意思を表示することで「味方である」と認識してもらい、心理的安全性に寄与する。(P127)

桑村小学校では、普段の授業においても子供たちの「自律」を大切に、「主体的・対話的で深い学び」を柱とした授業改善を進めてきました。また、学校行事においても資質・能力の育成に努めてきました。

大きな学校行事の一つである「運動会」では、子供たちがとても輝いていました。それは、自分たちで運動会を成功させようと６年生をリーダーに応援合戦をはじめ、様々な種目や係活動で自分で考え行動する姿が見られたからです。子供たちの力は無限に広がっています。私たち大人が子供を信じ、子供の思いを大切にじっくり待つことができたなら、「自律」する姿勢は大きく育つのではないでしょぅか。

このように子供たちに学校運営を任せる体験は必要であると思います。今年度スタートした読書活動推進リーダーによる「読書活動」の推進も、６年生の視点からいろいろな発想が生まれ、実践することができました。この活動をいかに下学年に引き継ぎ、持続可能な活動へと高めていくのかが大きな課題となります。

今年も、子供たちの思いを大切に「エンジョイ読書！」をモットーに学校と家庭が協働で取り組んでいきたいと思います。よろしくお願いします。